

2020年8月11日

本資料は、サノフィ(フランス・パリ)が2020年7月29日(現地時間)に発表したプレスリリースを日本語に翻訳・要約し、8月11日に配信するものです。本資料の正式言語はフランス語・英語であり、その内容および解釈については両言語が優先します。日本で承認されている主な製品名および一般名についてはカタカナ表記をしています。

## サノフィ、変革によって2020年度上半期に1株当たり事業純利益<sup>(1)</sup>が9.2%成長<sup>(2)</sup>

2020年度第2四半期の業績は、ワクチン、ジェネラルメディスン、CHCに対するCOVID-19関連の悪影響によって、デュピクセント®の好業績が相殺されたことを反映

- 純売上高は、調整前4.9%減(CERベースで3.4%減<sup>(2)</sup>)の82億700万ユーロ
- スペシャルティケアの売上高は、デュピクセント®(70%増の8億5,800万ユーロ)の好業績に牽引され、17.4%増
- ワクチンの売上高は、南半球でインフルエンザワクチンの需要が堅調であったにもかかわらず、世界的な外出制限の影響を受けて6.8%減
- ジェネラルメディスンの売上高は、外出制限に関連した待期的手術減少とチャネルでの在庫低減により、12.7%減
- CHCの売上高は、消費者の在庫解消と薬局への来店の減少に加え、ザンタック®の自主回収を反映し、8.0%減

2020年度第2四半期の1株当たり事業純利益<sup>(1)</sup>は、株式の再評価と効果的なコスト管理の好影響を反映

- 2020年度第2四半期の事業純利益は、3.6%増(CERベースで5.6%増)の16億100万ユーロ
- 2020年度第2四半期の1株当たり事業純利益<sup>(1)</sup>は、4.8%増の1.28ユーロ(保有しているRegeneron社株式の再評価を除くと1.18ユーロ)
- 2020年度上半期に、9億9,000万ユーロ<sup>(3)</sup>のコスト削減を達成
- 2020年度第2四半期のIFRS 1株当たり純利益は、Regeneron社株式の売却によるキャピタルゲインを反映し、6.07ユーロ

研究開発の変革、マイルストーン、および薬事面の進展

- デュピクセント®が成人における中等症から重症までのアトピー性皮膚炎に対する中国初の生物学的製剤として承認され、7月22日に初めて処方される
- デュピクセント®が小児(6歳から11歳まで)における中等症から重症までのアトピー性皮膚炎の適応症に関して米国で承認される
- サークリーサ®が成人の再発性難治性多発性骨髄腫の適応症に関してEUで承認される
- 再発性多発性骨髄腫においてサークリーサ®を評価するピボタルIKEMA試験が既定の初回中間解析で主要評価項目を達成
- Libtayo®が進行性基底細胞がんにおいて臨床的に意味のある持続的な反応を示す
- FDAが寒冷凝集素症におけるsutimlimabを優先審査の対象に指定
- Translate Bio社、Kiadis Pharma社、およびKymera Therapeutics社と提携契約を締結

2020年度通年の1株当たり事業純利益<sup>(1)</sup>の見通しを上方修正

- 重大な予期せぬ要因が発生しない限り、2020年度通年の1株当たり事業純利益<sup>(1)</sup>は、CERベースで6%~7%増<sup>(4)</sup>と予測。2020年7月の平均レートを適用すると、2020年度通年の1株当たり事業純利益への為替レート変動の影響は、-3%~4%と予測

### サノフィ最高経営責任者(CEO)のポール・ハドソンのコメント:

「第2四半期にチームが達成した成果を誇らしく思います。COVID-19の流行による逆風にもかかわらず、デュピクセント®の継続的な売上高伸張、効率と賢明な支出の重視、および患者さんと戦略的優先課題への取り組みに支えられ、1株当たり事業純利益の成長を達成しました。また、重要な薬事面のマイルストーンを達成し、新たな研究開発提携を構築し、COVID-19ワクチン候補の開発に向けた取り組みを加速しました。新たに4人を任命して完成したマネジメントチームで、2020年度通年の見通しの達成に一丸となって取り組んでまいります」



	2020年度 第2四半期	前年同期比	前年同期比 (CER)	2020年度 上半期	前年同期比	前年同期比 (CER)
IFRS 純売上高(為替調整前)	€8,207m	(4.9%)	(3.4%)	€17,180m	+0.9%	+1.6%
IFRS 純利益(為替調整前)	€7,598m	—	—	€9,281m	nm	—
IFRS 1株当たり純利益(為替調整前)	€6.07	—	—	€7.41	nm	—
フリーキャッシュフロー <sup>(5)</sup>	€2,010m	+56.5%	—	€3,568m	+69.6%	—
事業営業利益	€2,146m	+3.3%	+5.3%	€4,683m	+8.8%	+9.8%
事業純利益 <sup>(1)</sup>	€1,601m	+3.6%	+5.6%	€3,521m	+8.7%	+9.8%
1株当たり事業純利益 <sup>(1)</sup>	€1.28	+3.2%	+4.8%	€2.81	+8.1%	+9.2%

(1) 当カンパニーの業績をわかりやすく示すため、事業純利益計算書について説明します。事業純利益は、GAAP(一般会計原則)に調整を加えた財務指標です(付録 10 で定義)。2020 年度第 2 四半期の連結損益計算書については付録 3(英語版プレスリリース)に、IFRS 純利益(為替調整前)から事業純利益への調整については付録 4(英語版プレスリリース)に記載しています。(2) 特に指定のない限り、純売上高の増加は為替レート変動の影響を除いて(CER)算出(付録 10(英語版プレスリリース)を参照)。(3)COVID-19 に関連した約 1 億 1,000 万ユーロを含む。(4) 2019 年度の再表明した 1 株当たり事業純利益は、Regeneron 社投資について持分法での会計処理を中止したことを反映し、5.64 ユーロ。(5) フリーキャッシュフローは、GAAP(一般会計原則)に調整を加えた財務指標です(付録 10 で定義)。

## 2020 年度第 2 四半期および上半期のサノフィ売上高

特に指定のない限り、当プレスリリースの売上高の変動率は為替レート変動の影響を排除して<sup>(6)</sup>算出しています。

2020 年度第 2 四半期におけるカンパニー売上高は、調整前ベースで 4.9%減の 82 億 700 万ユーロでした。為替レートの変動により、主にブラジル・リアル、アルゼンチン・ペソ、およびメキシコ・ペソの下落によって米ドルと日本円の強さが相殺され、1.5 ポイントの悪影響を受けました。カンパニー売上高は、CER ベースで 3.4%減でした。

2020 年度上半期におけるカンパニー売上高は、調整前ベースで 0.9%増の 171 億 8,000 万ユーロでした。為替レートの変動により、0.7 ポイントの悪影響を受けました。カンパニー売上高は、CER ベースで 1.6%増でした。



## グローバルビジネスユニット(GBU)

以下の表は、2020年度第2四半期および上半期のグローバルビジネスユニット別売上高(コンシューマー・ヘルスケアを含む)と報告地域別売上高をまとめたものです。

GBU別純売上高 (単位:100万ユーロ)	2020年度 第2四半期	前年同期比 (CER)	米国	前年同期比 (CER)	欧州	前年同期比 (CER)	その他の国	前年同期比 (CER)
スペシャルティケア	2,707	+17.4%	1,709	+21.1%	526	+8.6%	472	+15.5%
デュピクセント®	858	+70.0%	697	+69.5%	84	+84.8%	77	+59.6%
多発性硬化症/ 神経学/その他の I&I	608	+1.7%	428	+2.9%	135	-2.9%	45	+4.4%
希少疾患	738	-0.5%	283	—%	232	-4.1%	223	+2.5%
オンコロジー	189	+18.2%	90	+18.7%	65	+20.4%	34	+13.3%
希少血液疾患	314	+6.2%	211	-6.4%	10	+150.0%	93	+38.8%
ジェネラルメディスン	3,549	-12.7%	716	-16.5%	1,012	-16.4%	1,821	-9.1%
糖尿病	1,194	-5.7%	391	-17.4%	293	-5.7%	510	+4.7%
循環器およびエスタブリッシュ処方製品 合計	2,355	-15.9%	325	-15.5%	719	-20.2%	1,311	-13.5%
ワクチン	927	-6.8%	203	-40.9%	128	-22.4%	596	+20.4%
コンシューマー・ヘルスケア(CHC)	1,024	-8.0%	281	-5.2%	297	-13.0%	446	-6.2%
<b>純売上高合計</b>	<b>8,207</b>	<b>-3.4%</b>	<b>2,909</b>	<b>—%</b>	<b>1,963</b>	<b>-10.8%</b>	<b>3,335</b>	<b>-1.4%</b>

GBU別純売上高 (単位:100万ユーロ)	2020年度 上半期	前年同期比 (CER)	米国	前年同期比 (CER)	欧州	前年同期比 (CER)	その他の国	前年同期比 (CER)
スペシャルティケア	5,402	+23.9%	3,348	+28.3%	1,115	+14.9%	939	+21.0%
デュピクセント®	1,634	+93.8%	1,310	+91.0%	174	+109.6%	150	+101.4%
多発性硬化症/ 神経学/その他の I&I	1,253	+7.3%	874	+10.1%	286	—%	93	+6.8%
希少疾患	1,532	+5.2%	563	+3.0%	500	+2.9%	469	+10.2%
オンコロジー	375	+23.2%	173	+19.0%	136	+28.3%	66	+24.1%
希少血液疾患	608	+5.0%	428	-2.3%	19	+111.1%	161	+21.7%
ジェネラルメディスン	7,618	-8.2%	1,458	-13.7%	2,232	-7.6%	3,928	-6.5%
糖尿病	2,476	-3.4%	766	-17.7%	618	-0.5%	1,092	+7.0%
循環器およびエスタブリッシュ処方製品 合計	5,142	-10.3%	692	-8.8%	1,614	-10.0%	2,836	-10.9%
ワクチン	1,836	-2.0%	491	-21.3%	281	-11.4%	1,064	+13.3%
コンシューマー・ヘルスケア(CHC)	2,324	-1.6%	583	-5.2%	717	-2.8%	1,024	+1.2%
<b>純売上高合計</b>	<b>17,180</b>	<b>+1.6%</b>	<b>5,880</b>	<b>+6.2%</b>	<b>4,345</b>	<b>-2.1%</b>	<b>6,955</b>	<b>+0.4%</b>

(6) 財務指標の定義は、英語版プレスリリース付録 11 を参照。

## 地域別売上高

サノフィ売上高 (単位:100万ユーロ)	2020年度 第2四半期	前年同期比 (CER)	2020年度 上半期	前年同期比 (CER)
米国	2,909	—%	5,880	+6.2%
欧州	1,963	-10.8%	4,345	-2.1%
その他	3,335	-1.4%	6,955	+0.4%
—中国	627	-10.2%	1,307	-12.4%
—日本	421	-13.3%	926	-10.8%
—ブラジル	190	+6.0%	460	+10.5%
—ロシア	170	+6.9%	364	+11.2%
<b>サノフィ売上高合計</b>	<b>8,207</b>	<b>-3.4%</b>	<b>17,180</b>	<b>+1.6%</b>

第2四半期における米国の売上高は、前年同期並みの29億900万ユーロでした。主にCOVID-19を巡る環境を反映し、デュピクセント®とAubagio®の堅調な業績が糖尿病、エスタブリッシュ処方製品、ワクチン、およびCHCの売上高減少によって相殺されました。上半期における米国の売上高は、6.2%増の58億8,000万ユーロでした。



第 2 四半期における欧州の売上高は、在庫調整、待期的手術の延期による Lovenox の売上高減少、ワクチンの売上高減少(いずれも COVID-19 の影響)を反映し、10.8%減の 19 億 6,300 万ユーロとなりました。デュピクセント®とオンコロジー製品群は、引き続き大幅に成長しました。上半期の売上高は、2.1%減の 43 億 4,500 万ユーロでした。

第 2 四半期におけるその他の国の売上高は、ワクチンとデュピクセント®の堅調な成長、および希少疾患と糖尿病の成長によって、中国の VBP プログラムの悪影響が部分的に相殺されたことを反映し、1.4%減の 33 億 3,500 万ユーロとなりました。第 2 四半期における中国の売上高は、ランタス®とワクチンの大幅成長にもかかわらず、VBP プログラムにより、プラビックス®、Aprovel®製品群、およびアマリール®の売上高が減少したことを受けて、10.2%減の 6 億 2,700 万ユーロとなりました。第 2 四半期における日本の売上高は、エスタブリッシュ処方製品と CHC の売上高が減少したことを反映し、13.3%減の 4 億 2,100 万ユーロとなりました。第 2 四半期におけるブラジルの売上高は、インフルエンザワクチン、CHC、セラザイム®、および Lovenox®に牽引され、6.0%増の 1 億 9,000 万ユーロとなりました。上半期におけるその他の国の売上高は、0.4%増の 69 億 5,500 万ユーロとなりました。

## サノフィについて

サノフィは、健康上の課題に立ち向かう人々を支えます。私たちは、人々の健康にフォーカスしたグローバルなバイオ医薬品企業として、ワクチンで人々を守り、革新的な医薬品で痛みや苦しみを和らげます。希少疾患をもつ少数の人々から、慢性疾患をもつ何百万もの人々まで、寄り添い支え続けます。

サノフィでは、100 カ国において 10 万人以上の社員が、革新的な医科学研究に基づいたヘルスケア・ソリューションの創出に、世界中で取り組んでいます。

サノフィは、「Empowering Life」のスローガンの下、ヘルスジャーニー・パートナーとして人々を支えます。

日本法人であるサノフィ株式会社の詳細は、<http://www.sanofi.co.jp> をご参照ください。

## サノフィ今後の見直しに関する記述

当プレスリリースには、1995 年民間有価証券訴訟改正法(修正を含む)でいう「今後の見直しに関する記述」が含まれています。今後の見直しに関する記述とは、歴史的事実を述べるものではない記述です。これらの記述には、計画と予測ならびにそれらの根拠となる前提、将来の財務結果、事象、事業、サービス、製品の開発および可能性に関する計画、目標、意向および期待に関する記述、ならびに、将来の実績に関する記述が含まれます。一般的に、今後の見直しに関する記述は、「予想」、「期待」、「見込み」、「予定」、「予測」、「計画」などの表現によって識別されます。サノフィの経営陣はそのような今後の見直しに関する記述に反映された予想を妥当と考えますが、投資家は今後の見直しに関する情報と記述がさまざまなリスクと不確実性の影響を受けやすく、それらの多くが予測困難であり、通常サノフィが制御できず、そのために実際の結果と進展が、今後の見直しに関する情報と記述の中で表現された、暗示された、または予測されたものとは実質的に異なる場合があることに注意してください。そのようなリスクと不確実性には、研究開発、市販後を含む今後の臨床データおよび解析、薬剤・機器・生物学的製剤などの製品候補について提出される申請の承認の是非および時期に関する FDA や EMA などの規制当局の決定、ならびにそのような製品候補の利用可能性や商業的可能性に影響を及ぼすラベリングその他の問題に関する当局の決定に付随する不確実性、製品候補が承認された場合に商業的に成功しない可能性があるという事実、代替治療薬の将来的な承認および商業的成功とサノフィが外部成長の機会から利益を得る可能性、関連する取引を完了する能力、および規制当局の認可を得る能力、知的財産権に関連するリスクおよび知的財産に関する現在係争中または将来に生じる訴訟、当該の訴訟の最終結果に付随する不確実性、為替レートと実勢金利のトレンド、不安定な経済情勢と市場状況、コスト削減イニシアチブとその後の変更の影響、COVID-19 が当社、顧客、サプライヤー、ベンダー、その他の事業パートナー、それらの財務状態、当社の従業員、世界経済全体に及ぼす影響が含まれます。上記に対する COVID-19 の重大な影響は、当社にも悪影響を及ぼす可能性があります。この状況は急速に変化しており、当社が現在認識していない追加的な影響が生じ、以前に特定された他のリスクが悪化するおそれがあります。このようなリスクや不確実性には、2019 年 12 月 31 日終了事業年度フォーム 20-F 年次報告書の「リスク要因」および「今後の見直しに関する記述」項目を含む、サノフィが作成した SEC および AMF に対する公の届け出の中で議論されているかまたは特定されているものも含まれます。サノフィは、適用法によって義務付けられている場合を除き、今後の見直しに関する情報または記述の更新または見直しを行う義務を負うものではありません。